

第6学年「全員アタック ワンキャッチ バレーボール」ーボール運動領域 ネット型ー

大洲市立喜多小学校 入澤 勝利

「全員アタック ワンキャッチ バレーボール」は、パスを“つなげて”相手とのラリーを“たちきる”ことの、面白さを味わわせることができる教材です。「パスがつながらない」「一部の人が活躍をする」という子どもの困り感をなくすために「ふらばーるバレーボール」という教具を使用したり、ルールを工夫を行ったりしました。ボール操作が得意な子どもだけでゲームを成立させるのではなく、メンバー全員による連携プレイを積極的に行うことができることをねらいとしています。

○ 単元計画

時	第1時	第2～7時	第8時
はじめ	○ オリエンテーション ・単元のねらい ・学習の進め方 ・ルールやマナー ・学習カード ・役割分担	○ 用具の準備 ○ 準備運動 ○ めあての確認	
なか		○ ミニドリル ・「ふらばーるバレーボール」を使ったパス練習 ・サークルパス ・サーブ練習 ・アタック練習 ○ ゲーム ・全員アタック ワンキャッチ バレーボール	○ □□小リーグ ・チームの作戦を決め、意図的な攻防ができるようにする。 ・作戦の練り直し ・兄弟ペアによる話し合い
おわり		○ 振り返り (ハッピーワード/本日の MVP) ○ 整理運動	○ 単元の振り返り ・まとめ

○ 運動のポイント

誰にとっても「やさしい運動」にするための工夫

① 「ふらばーる」バレーボールの使用



やわらかい・軽い

ボールスピードが遅い

ボールへの抵抗感が軽減
落下点が判断しやすい② 動きのポイントを共通言語化
(オノマトペ)

③ 子どもの実態に応じたルール

ルール・・・攻げきは必ず3回さわって相手コートに返さなければならない。

返ってきたボールをワンバウンド

キャッチした後は、ボールを持って自由に動いてトスを上げてよい

人数・・・コート内 3人(ローテーションでまわる)

(ゲーム展開の例)
相手のアタックのあと、ワンバウンドしてから、レシーブしてワンキャッチ(トス)して、アタックしよう！



・3対3は、全員がボールに関わることができます。
(レシーブ、トス、アタック)
・コートの広さは、バドミントンのコートで行います。

第3学年「集え！スペシャリスト」ー多様な動きをつくる運動ー

八幡浜市立松蔭小学校 井上 凌

多様な動きに親しませて、動きの質が高まる喜びを味わわせることを目指して、本単元を構想しました。

○ 単元計画

前半は、低学年で扱ったやさしい動きの運動を中心に、多様な運動に親しませることを重視しました。後半は、単元を通して行うリレー形式の運動を中心に据えました。子どもたちは、五つの運動に継続的に取り組むことで、動きの質が高まっていくことを実感していました。

時	第1時	第2・3時	第4時	第5時	第6時
はじめ	○ オリエンテーション ・単元のめあて ・学習の進め方 ・試しの運動	○ 準備運動 ○ 用具の準備 ○ 多様な動きに親しむ活動			
なか		○ ルールの確認 ○ リレー競技 ○ 練習	○ 仲間とつながるリレー競技 ①ケンステップジャンプ ②ボール運び ③手押し車 ④長縄ボールキャッチ ⑤ボール渡しリレー		
おわり		○ 振り返りタイム ・動きやポイントの振り返り ・ルールの確認・変更			○ 単元の振り返り ・まとめ

○ 運動のポイント

1時間ごとに運動を一部変更

①ケンステップジャンプ

②ボール運び

③手押し車

④長縄ボールキャッチ

⑤ボール渡しリレー

<毎時前半>多様な動きに親しむ活動

<毎時後半>仲間とつながるリレー競技

○ ルールの変更や追加について

子どもたちから出てきた意見を積極的に取り上げ、ルールや場を工夫することで、運動が得意な子どもも苦手な子どもも、前向きな気持ちで運動に取り組むことができました。

<基本のルール(ケンステップジャンプ)>

- 5人以内で行い、10m先に設置したコーンを折り返して戻ってくる。ジャンプする人は、輪の中にしか着地できず、輪の外に足が着いたら、一つ前からやり直す。

<子どもたちが考えた追加のルール(ケンステップジャンプ)>

- ケンステップの数を増やす。(三つ→四つ)
- ケンステップの色を全て変え、運ぶ役割を決める。



手押し車をする人を2人から3人にしてみよう。

内側からボールを投げてみよう。(長縄 ボールキャッチ)



「楽しいを作る」「楽しいを考える」を合い言葉に、みんなが楽しめるルールや場の工夫を考えます。全て2人以上で行う競技内容にしたため、自然と対話が生まれました。